

赤城大沼用水土地改良区の花いっぱい活動

1 改良区の概要

設立年月日	昭和27年6月30日 群第38号
受益面積	355ha
組合員数	1,213人
住所	群馬県前橋市富士見町田島240番地（前橋市富士見支所内）
理事長	関口 隆正

2 改良区的位置

赤城大沼用水は、上毛三山（赤城山、榛名山、妙義山）の一つ赤城山の火口湖大沼より取水し、群馬県のほぼ中央部に位置した、赤城南麓の溪流河川・赤城白川を利用し、下流地域の前橋市に広がる水田地帯（赤城山南面の広大な裾野に拓けた標高142m～470mの受益面積355ha）を潤す農業用水である。



富士見村は、平成21年5月5日前橋市と合併して前橋市富士見町になりました。



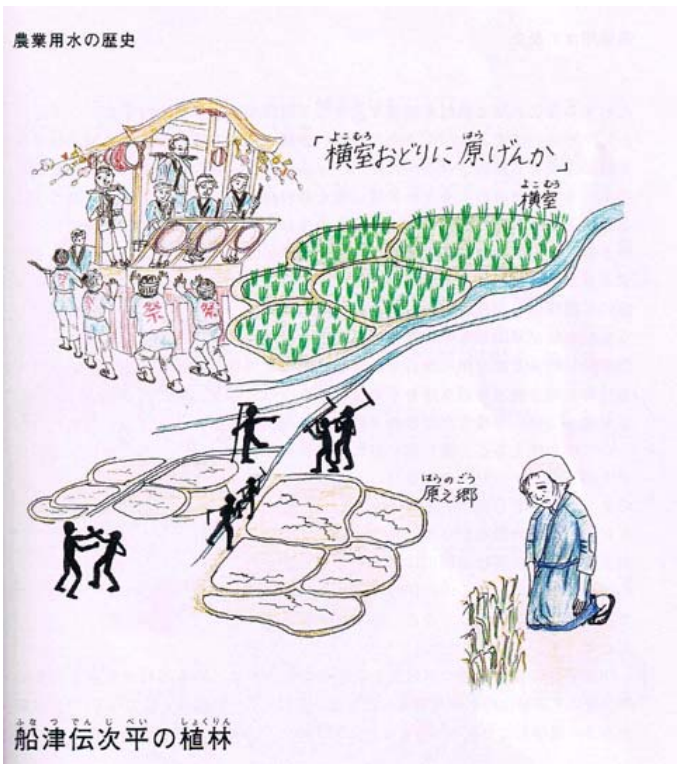
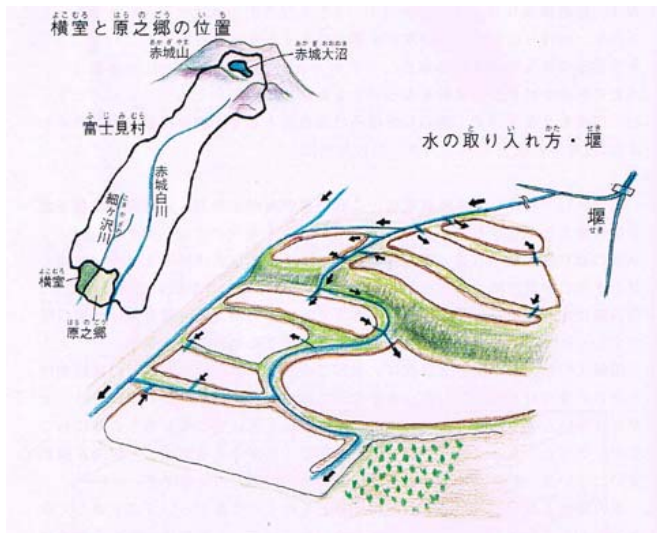
3 事業の生い立ち

本区域は、昔からかんがい用水に乏しく、植え付け期には、年々非常な努力が払われ、干ばつの被害も甚大であった。時には、堰を挟み農民相対峙し、流血の惨を見、又法廷に争い互いに譲らぬこともたびたびであった地域である。

このような水飢饉を解消するため、昭和10年近隣町村長と諮り赤城大沼用水期成同盟会を組織し、一大決意を持って、天与の水源である赤城大沼の湖水を導水し治水する画期的な事業を興し、昭和16年赤城大沼用水耕地整理組合が設立され、県営により工事が開始された、しかしながら隧道地質の軟弱、湧水等の難工事、太平洋戦争の影響による資材の入手困難、技術者不足等により工事の進捗は図れず、16年間の長年月を費やし、念願叶い昭和32年に通水の運びとなった。このことから、現在では、水田の植え付け期には、水の確保ができ、水飢饉が解消された。さらに、堰を挟み農民が相対し行われていた「水喧嘩」も終息となった。



「ふじみかるた」より



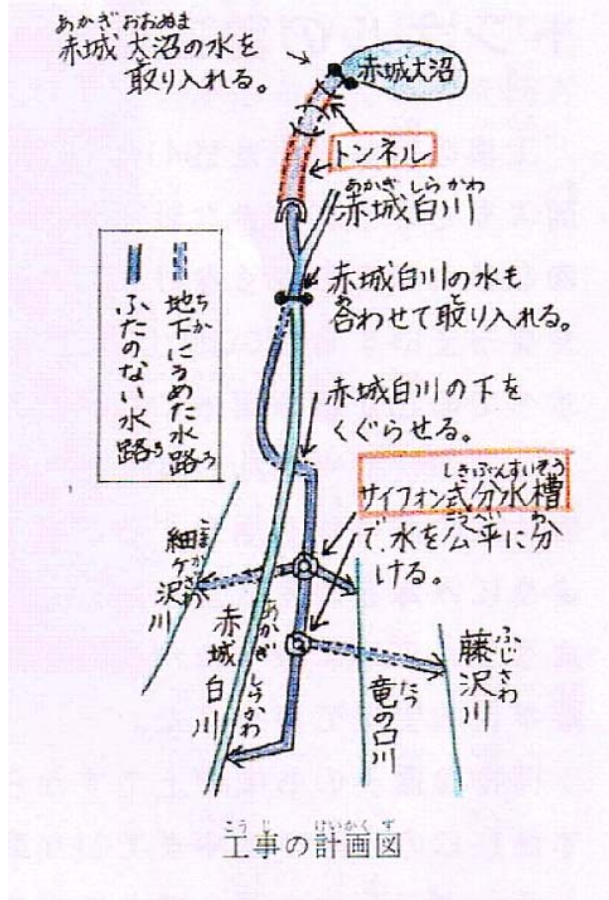
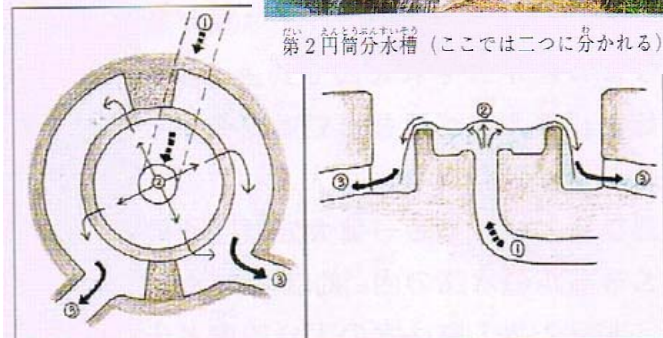
昔からかんがい用水に乏しく、非常な努力が払われ、被害も甚大であった。
堰を挟み農民相対峙し、流血の惨を見、又法廷に争い互いに譲らぬこともたびたびであった

4 事業の概要

改良区は、広大な農地に、農業用水を配分するため赤城山大沼を水源とし、大沼頭首工及び白川頭首工から取水している。

導水幹線は、赤城大沼を始点とし、導水トンネル(内隧道1.7 km)により赤城白川へ注水する延長2.2 kmと白川頭首工から第一円筒分水工に至る5.7 kmである。

また、幹線は、第一円筒分水工を始点に、不入幹線、滝の口幹線、中央幹線、及び第二円筒分水工から分岐する牛石幹線、白川幹線の総延長3.8 kmである。



5 維持管理及び植栽活動

施設の維持管理については、土地改良区の役員、職員が当たり、用水の有効利用を図っている。
また、末端の用水管理については、地元の組合員が自主的に管理を行っている。

この維持管理を行う幹線水路の敷地内や円筒分水工の施設内に、桜・ツツジ・草花を植栽し、農業用水の大切さを地域の人々に理解して貰おうと啓発活動の話が持ち上がり、平成20年度から活動を開始した。

平成21年度には、ボランティア団体「富士見地区赤十字奉仕団」及び「ツツジの森会」の協力を得て活動がさらに拡大されている。

今後も、役員・組合員一丸となって大切な水を守るための維持管理を続けていく。

赤城大沼用水土地改良区

赤城大沼用水土地改良区は、赤城山の沼から水を赤城県道沿いに流れてきています。

10kmくらいある開渠部分にボランティア（日赤奉仕団、つつじの森会）さんのご協力によりまして、山の花、レンゲツツジ等を植栽、管理しています。

赤城山へ登る道路である水路沿いにレンゲツツジが並んで咲いている風景をいつか見られるかもしれない

昨年植樹した

小さい円筒分水の周りを花でいっぱい

忙しい仕事の合間を見てみんなでおしゃべりしながらの楽しい一時

円筒分水の周囲が 花で一杯になりました。

6 事業にまつわる話

改良区では、この事業及び完成させた先人たち（船津伝次平、木村与作、樺沢政吉等）の偉業を風化させないためと、水の大切さを後世に引き継ぐため、県及び関係機関の協力を得て「赤城の沼に水を求めて」（赤城大沼用水を作った人々）の小冊子を作成し、行政及び学校等に配布し啓発に努めている。

また、第一円筒分水工北側に広がる里山は（昭和の森公園）、昭和26年4月4日の全国植樹祭に天皇皇后両陛下が行幸され、三本ずつ松苗をお手植えされた場所でもあります。

現在も松が聳えており、前橋市民の憩いの場となっている。



〔天皇陛下お手植えの松〕



〔この事業及び完成させた先人たち（船津伝次平、木村与作、樺沢政吉等）を紹介した小冊子〕

平成22年7月

群馬県水土里レポーター
富士見北橋土地改良区
事務局長 品川 貞雄